科目名	マクロ経済学Ⅰ (Aクラス)	科目分類	■専門科目群 □総合科目群	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Macroeconomics I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
ふりがな	きはら たかし	実務家教員担当科目	○	修得単位 2単位
担当者名	木原 隆司	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	本講義では、生産物市場・貨幣市場（資本市場、金融市場とも呼ばれます）・労働市場について考察し、その相互作用について理解し、一地域・一国・世界全体など「経済全体」における均衡について学ぶマクロ経済学の入門範囲について講義します。			
到達目標	まず、GDPとは何か、国民経済計算を学びます。物価指数とインフレ率について学び、名目GDPと実質GDPについて理解します。次に、生産物市場に注目し、国民所得決定の理論について学び、乗数効果について理解します。更に、貯蓄と投資を結びつける貨幣市場について学び、貨幣の定義と貨幣需要と貨幣供給の決定要因について理解し、利子率の決定と中央銀行の役割について理解します。 そして、生産物市場と貨幣市場を統合したIS-LM分析、更には労働市場も統合した総供給曲線と総需要曲線による経済全体の均衡を学びます。そのうえで、財政政策と金融政策の効果を学びます。			
授業概要	この講義では、伊藤元重『入門・経済学』の後半（Part2 マクロ経済学）をテキストとして用いながら、マクロの生産物市場・貨幣市場・労働市場の均衡や財政金融政策の効果のみならず、ケインジアンと新古典派の考え方の相違、経済成長など、幅広く取り上げて解説します。 また、マクロ経済学を学んでいくためには、ある程度の数学の知識（微分・数列など）が必要です。この講義では、各回の授業で必要となる関数や微分、数列の基礎も一緒に学びます。			
授業計画				
第1回	ガイダンス・経済全体のフロー循環（伊藤第9章I）			
第2回	GDPと国民所得計算（伊藤第9章I）			
第3回	物価指数とインフレーション（伊藤第9章I・第13章I）			
第4回	生産物市場—有効需要の原理とセイの法則（伊藤第9章II・第10章他）			
第5回	生産物市場の均衡—国民所得決定の理論（伊藤第10章）			
第6回	乗数効果（伊藤第10章）			
第7回	金融市場と中央銀行（伊藤第11章）			
第8回	貨幣市場と利子率の決定（伊藤第11章・第12章他、IS-LM分析）			
第9回	労働市場と失業（伊藤第13章II）			
第10回	総需要と総供給（伊藤第9章II・伊藤『マクロ経済学』第8章）			
第11回	総需要曲線—生産物市場と貨幣市場の統合（伊藤『マクロ経済学』第8章）			
第12回	総供給曲線—長期と短期（伊藤『マクロ経済学』第8章）			
第13回	財政政策と金融政策（伊藤第12章・第14章）			
第14回	生産性の決定要因と経済成長（伊藤第15章）			
第15回	講義のまとめ			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	1. 講義のPPTを事前にDownloadして、良く読んだ上で、講義に臨んでください（2時間程度）。 2. 講義後は、「重要語句」とともに、論理を理解するように復習してください（2時間程度）。			
履修条件 受講のルール	テキストに沿って講義を進めるので、テキストを購入してください。			
テキスト	伊藤元重（2015）『入門 経済学』（第4版）日本評論社			

参考文献・資料	参考文献：伊藤元重（2012）『マクロ経済学』（第2版）日本評論社 講義用PPTをPDF化したものを、事前にポータルサイトにアップします。
成績評価の方法	レポート等講義への貢献（40%）・定期試験（60%）を目安として、総合的に評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日 10：40～12：10 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	担当教員は、財務省・外務省・経済企画庁等の中央官庁の参事官・部長・課長等、国際機関の米州開発銀行（IDB）・アジア開発銀行（ADB）職員やWTO（世界貿易機関）担当の一等書記官などの職務を通じて、マクロ経済学を用いた公共政策に深く関わってきました。この経験を学生の皆さんに伝えたいと思います。
学生へのメッセージ	「マクロ経済学」は、経済成長論、金融論や国際金融論、開発経済学等の「応用経済学」の基礎となり、またマクロ経済学の知識がなければ、多くの経済政策の意味を理解できません。是非、マクロ経済学の概念と手法を習得し、幅広く応用していただければと思います。

科目名	マクロ経済学Ⅰ (Bクラス)	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	Macro Economics I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
ふりがな	ふかさわ やすお	実務家教員 担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	深澤 太郎	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	マクロ経済学の基礎を、日本経済を例としてじっくり学びます。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 日本経済の経済指標等の実際のデータに基づき、マクロ経済学の基礎知識が習得できる。 2. 上記により、日本経済新聞の経済関係の記事の理解度が、大幅に上昇し、社会人と求められる水準に届く。				
授業概要	受講者数にも左右されるが、理想としては、事前に教科書、掲示資料に目を通してもらい、授業中には可能な限り、各項目についての質問を行いたい。経済指標等のデータに基づき理論を確認し、基礎知識を取得した上で、自ら考える姿勢を身につけてもらいたい。				
授業計画	(授業においてポータルサイトに掲示された資料等は、すべて試験の範囲に含まれる)				
第1回	イントロダクション：現在の世界経済の外観、日本経済の現在の立ち位置、決定的な人口問題				配布資料
第2回	マクロ経済学とは何か？「日本の失われた30年」とマクロ経済学、掲示資料				
第3回	GDPとは何か(生産=所得の概念)			テキスト 第2章	
第4回	GDPとは何か(生産=支出の概念)			テキスト 第2章	
第5回	名目値と実質値、「総」と「純」の概念、減価償却費			テキスト 第2章	
第6回	交易利得について、GDPとGDI			配布資料	
第7回	金融市場 金利(現在価値の考え方、スポットレートとフォワードレート、債券価格の計算)			配布資料	
第8回	中間テスト(持ち込み可)				
第9回	数学的な基礎(数列、ネイピアのe、対数等)、中間テストの回答と解説・返却				
第10回	閉鎖経済の短期モデルの展開①(短期モデルに基本的な考え方と乗数効果のメカニズム)			テキスト 第6章	
第11回	閉鎖経済の短期モデルの展開②(財市場の数量調整と貨幣市場の需給調節)			テキスト 第6章	
第12回	閉鎖経済の短期モデルの展開③(IS-LMモデルにおける財政・金融政策)			テキスト 第6章	
第13回	IS-LMモデルの計算問題演習			テキスト 第6章	
第14回	現在の日本の金融政策			配布資料	
第15回	日本の一般政府の財政状況			配布資料	
第16回	定期試験(持ち込み不可)、期末テスト(持ち込み可)				
授業時間外の学習	資料をポータルサイトに掲示しますので、テキスト・資料は事前に通読して疑問点があれば質問すること(0.5~1時間)。確認のための復習をし、疑問点があれば翌週に質問すること(0.5~1.0時間)。				
履修条件 受講のルール	2年時以降には、マクロ経済学Ⅱを受講すること。マクロ経済学Ⅱの受講時には、基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱの単位を履修済のこと。 テキストを必ず購入してください。また、適宜資料を掲示しますが、休んだ場合はポータルサイトを確認してください。受講者の理解度等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。 受講者はかならずパソコンを持参すること。資料はポータルサイトに掲示します。また授業でパソコンを使用して、経済データの分析、グラフ作成を行う場合があります。				

	<p>なお、長文の資料等については、正しい理解ためにはプリントアウトが必要な場合があります。そのコストは自己負担となりますが、適宜判断して下さい。</p>
テキスト	「マクロ経済学（有斐閣、2016年）」斎藤誠ほか3名、及びポータルサイトに掲示する資料
参考文献・資料	<p>第3回授業「金融危機の本質シリーズ 補足数学簡単解説 I」深澤泰郎 第7回授業：「金融商品情報（一口知識）（1）スポットレートとディスカウントファクター、同（2）フォワードレートについて」深澤泰郎 第14回授業：「日本経済と財政危機の本質シリーズ5 アベノミクスは間違った振り、本当は狙い通り！」深澤泰郎</p>
成績評価の方法	<p>中間テスト（40%）、期末テスト（40%）、定期試験（10%）、その他（10%） 出席回数の規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10</p>
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	<p>長年、金融機関、学校等で機関投資家として長期投資を行ってきました。その中で、市場の長期予想を行ってきましたが、国としての日本経済の先行きはかなり暗いと思います。ただ、マクロ経済としては良くならないとしても、皆さんのような若者が、個人として人口減少下で生き抜く方法は必ずあります。そのことも授業の中でお話ししたいと思います。</p>
学生へのメッセージ	<p>マクロ経済学は、日本経済を理解するための必須のツールです。そして日本経済を理解していることが、社会人として求められます。なお、マクロ経済学を一通り理解するためには、マクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅱ、経済成長論の3科目を履修することが望ましい。株価が最高値を更新したとしても、日本経済の将来は相当暗いと言わざるを得ません。その中で、個人として幸福になる道が、マクロ経済学を学ぶことによって見つかるかもしれません。</p>